

久御山町の結果概要

1. 人口と世帯数

(1) 町の人口は 16,610 人、前回調査と比べ 470 人減少

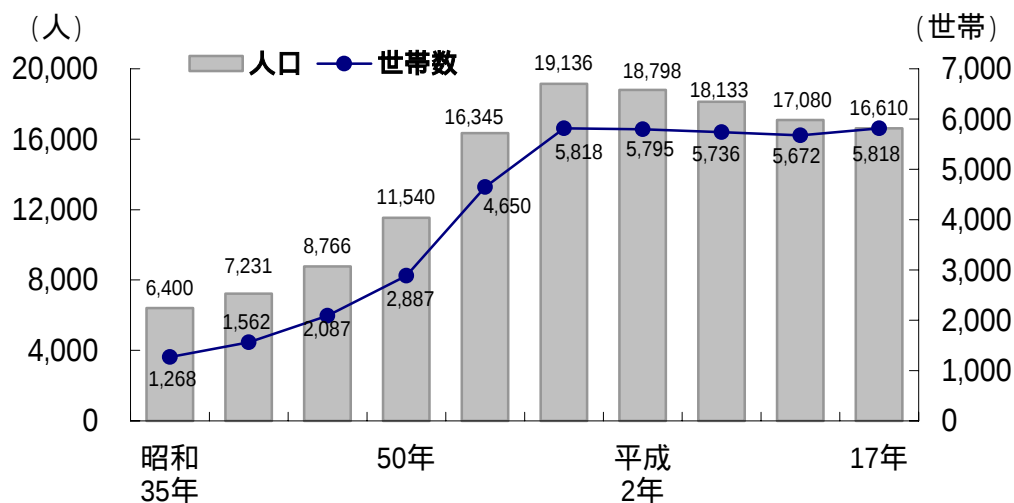
平成 17 年 10 月 1 日現在の久御山町の人口は 16,610 人でした。前回の平成 12 年調査では 17,080 人でしたので、この 5 年間で 470 人（2.8%）減少しています。また、人口の推移をみると平成 2 年調査から減少し続けています。

男女別にみると、男性が 8,169 人、女性が 8,441 人と、女性が男性を 272 人上回り、人口性比（女性 100 人に対する男性の数）は 96.8 となっています。

(2) 町の世帯総数は 5,818 世帯で、一般世帯数は前回調査と比べ 165 世帯増加

平成 17 年 10 月 1 日現在の久御山町の世帯総数は 5,818 世帯でした。このうち、一般世帯は 5,814 世帯で、その世帯人員は 16,503 人となっています。この 5 年間で一般世帯数は 165 世帯（2.9%）増加しました。

●人口および世帯数の推移



2. 年齢別人口

(1) 5 歳階級別人口

5 歳階級別に人口をみると、55～59 歳が 1,703 人（人口総数の 10.3%）と最も多く、次いで 30～34 歳が 1,418 人（同 8.5%）、60～64 歳が 1,275 人（同 7.7%）の順になっています。

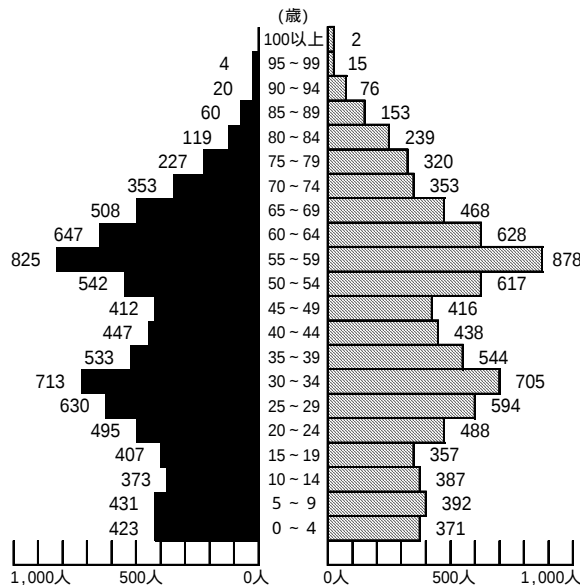
(2) 年齢 3 区分別人口

人口を年齢 3 区分別にみると、0～14 歳の年少人口が 2,377 人（人口総数の 14.3%）、15～64 歳の生産年齢人口が 11,316 人（同 68.1%）、65 歳以上の老年人口が 2,917 人（同 17.6%）でした。また、この 5 年間の年齢 3 区分別の人口割合をみると、年少人口は横ば

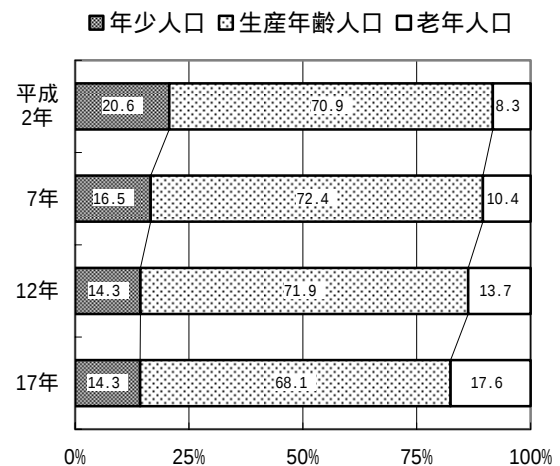
い、生産年齢人口は3.8ポイント低下しているのに対し、老年人口は3.9ポイント上昇し、この5年間で老年人口が年少人口を上回りました。

年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口および生産年齢人口は減少傾向にあります、老年人口は増加傾向にあります。

● 年齢5歳階級・男女別人口



● 年齢3区分別人口の推移



3. 人口密度

人口密度は1 k m²当たり 1,198.4 人でした。前回調査では 1,232.3 人でしたので、この5年間で 33.9 人 (2.8%) 減少し、平成2年調査から減少傾向にあります。

また、京都府全体の人口密度は1 k m²当たり 574.0 人でしたので、久御山町は京都府の人口密度を上回り、京都府下市町村で 11 位となっています。

4. 人口集中地区人口と面積

人口集中地区 (DIDs) の人口は 12,310 人で、面積は 3.16 k m²で、前回調査と同じでした。この5年間で、人口は 352 人 (2.8%) 減少し、町の総人口に占める割合は 74.1%となりました。

また、人口集中地区の人口密度は1 k m²当たり 3,895.6 人で、前回調査と比べ、111.4 人減少しました。

5. 昼夜間人口比率は全国の市町村で第1位

久御山町の常住人口(夜間人口)は 16,610 人で、昼間の流出口と流入人口を比べると、12,232 人の流入超過となり、常住人口に加えた昼間人口は 28,842 人で、前回調査と比べると 408 人 (1.4%) 減少しました。

また、昼夜間人口比率(夜間人口 100 に対する昼間人口の割合)は 173.6 で、前回調査と比べ 2.1 ポイント上昇し、今回も全国の市町村(13大都市の各区を除く)で最も高くなっています。

6．世帯人員は2人世帯・3人世帯が増加し、4人以上世帯は減少

一般世帯の世帯規模を1世帯当たり人員でみると2.84人となり、前回調査と比べ0.16人減少し、世帯規模が縮小しています。

また、世帯人員別に一般世帯をみると、2人世帯が1,539世帯（一般世帯総数の26.5%）で最も多く、次いで3人世帯が1,277世帯（同22.0%）、1人世帯が1,180世帯（同20.3%）となっています。前回調査と比べ、4人以上の世帯はいずれも減少し、3人以下の世帯はいずれも増加しています。

7．高齢夫婦世帯・高齢単身者世帯はともに増加

夫65歳以上、妻60歳以上の高齢夫婦世帯は480世帯で、一般世帯に占める割合は8.3%でした。前回調査では、一般世帯に占める割合は6.1%（344世帯）でしたので、この5年間に136世帯、2.2ポイント上昇しています。

また、65歳以上の高齢単身者世帯は340世帯で、前回調査に比べて105世帯増加し、高齢夫婦世帯、高齢単身者世帯がともに増加しています。

8．核家族世帯は3,755世帯で親族世帯の81.6%を占める

一般世帯の家族構成を類型別にみると、世帯主と親族関係にある世帯員がいる親族世帯は4,603世帯（一般世帯総数の79.2%）、世帯主と親族関係のない世帯員のみからなる非親族世帯は31世帯（同0.5%）、世帯員が1人の単独世帯は1,180世帯（同20.3%）を占めています。

また、親族世帯のうち核家族世帯は3,755世帯で、一般世帯の64.6%を占め、前回調査の3,661世帯から94世帯（2.6%）増加しています。

9．産業別就業者数は第3次産業に従事する就業者の割合が増加

15歳以上就業者数は8,677人で、これを産業3部門別にみると、第1次産業就業者は735人（就業者総数の8.5%）、第2次産業就業者は2,917人（同33.6%）、第3次産業就業者は4,954人（同57.1%）となっています。

前回調査と比べると、第1次産業就業者は31人（4.4%）増加し、第2次産業就業者は582人（16.6%）の減少となり、第3次産業就業者は118人（2.4%）増加しています。

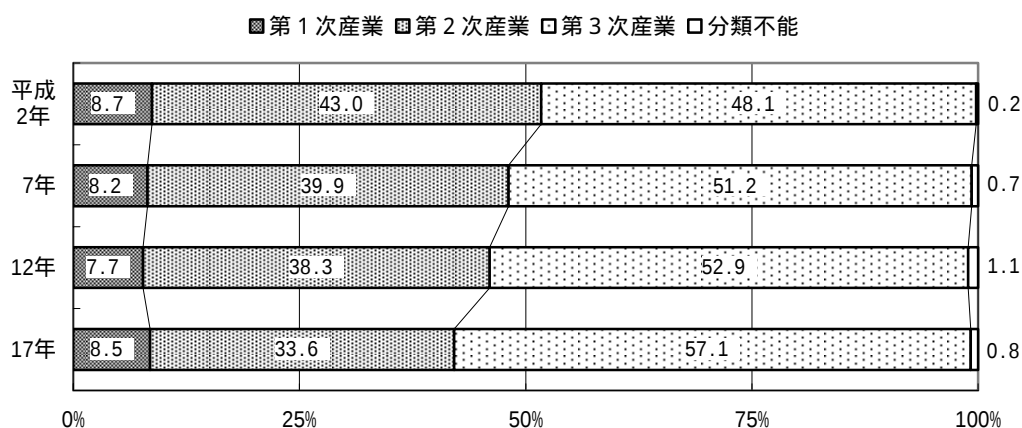
(1) 産業3部門別就業者割合の推移

産業3部門別就業者割合の推移をみると、第1次産業と第2次産業は、昭和60年以降いずれも減少していましたが、今回、第1次産業は増加に転じました。また、第3次産業は引き続き増加しています。

(2) 産業大分類別就業者

産業大分類別の就業者数をみると、製造業が2,222人（就業者総数の25.6%）と最も多く、次いで卸売・小売業が1,371人（同15.8%）、サービス業が947人（同10.9%）、運輸業が747人（同8.6%）、農業が734人（同8.5%）、建設業が690人（同8.0%）となっています。

● 産業3部門別就業者割合の推移



● 産業大分類別就業者数

